

令和7年度（令和6年度実施）
高知県公立学校教員採用候補者選考審査
筆記審査（専門教養）

中学校 高等学校 特別支援学校 中学部・高等部
音楽

受審番号		氏 名	
------	--	-----	--

【注意事項】

- 1 審査開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないでください。
- 2 解答用紙（マークシート）は2枚あります。切り離さないでください。
- 3 解答用紙（マークシート）は、2枚それぞれに下記に従って記入してください。
○ 記入は、HBの鉛筆を使用し、該当する○の枠からはみ出さないよう丁寧にマークしてください。



- 訂正する場合は、消しゴムで完全に消してください。
- 氏名、受審する教科・科目、受審種別、受審番号を、該当する欄に記入してください。

また、併せて、右の例に従って、受審番号をマークしてください。

- ※ 正しくマーク（正しい選択問題への解答及びマーク）していないと、正確に採点されませんので、注意してください。

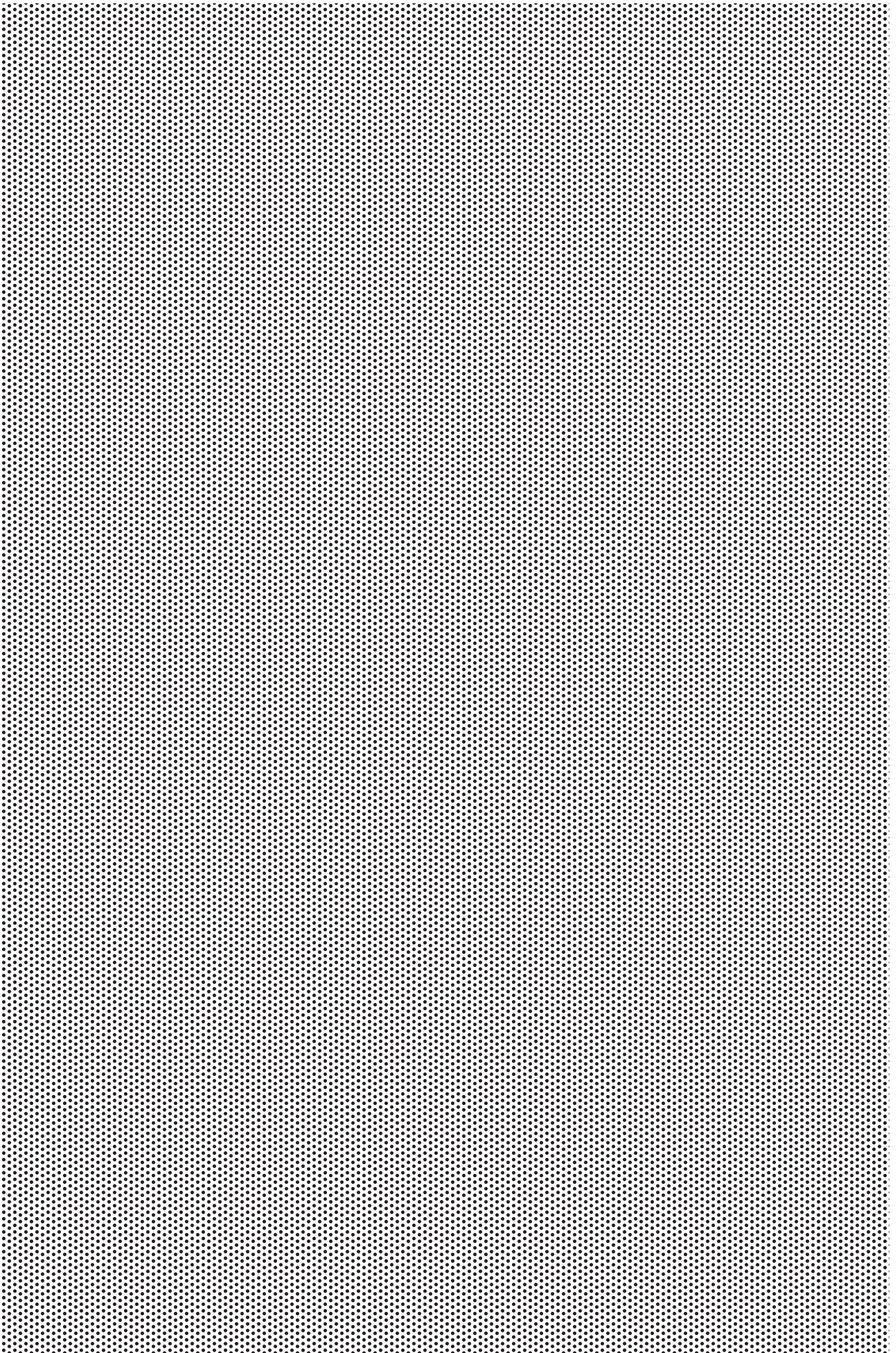
受 審 番 号				
万	千	百	十	一
1	2	3	4	5
○0	○0	○0	○0	○0
●	○1	○1	○1	○1
○2	●	○2	○2	○2
○3	○3	●	○3	○3
○4	○4	○4	○4	○4
○5	○5	○5	○5	●

記入例

(受審番号12345の場合)

- 4 この問題は、【共通問題】、及び【選択問題 中学校】、【選択問題 高等学校】、【選択問題 特別支援学校】の各問題から構成されています。選択問題で受審種別以外の問題を選択して解答した場合、解答は全て無効となります。

※本冊子の裏表紙に、【注意事項】の続きが記載されています。本冊子を裏返して、必ず読んでください。まだ、問題冊子は開かないでください。



【共通問題】

第1問 次の1～4の問いに答えなさい。

1 音程に関して、次の(1)～(3)の問いに答えなさい。

(1) 次の楽譜に示す音程を、下のa～dから一つ選びなさい。 ア



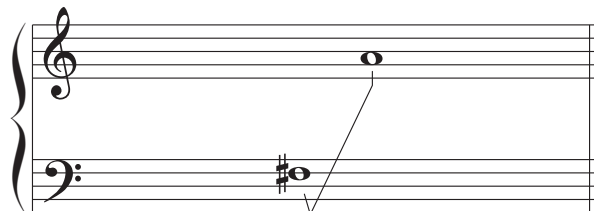
- a 減6度 b 短6度 c 長6度 d 増6度

(2) 次の楽譜に示す音程を、下のa～dから一つ選びなさい。 イ



- a 減5度 b 完全5度 c 増5度 d 重増5度

(3) 次の楽譜に示す音程を、下のa～dから一つ選びなさい。 ウ

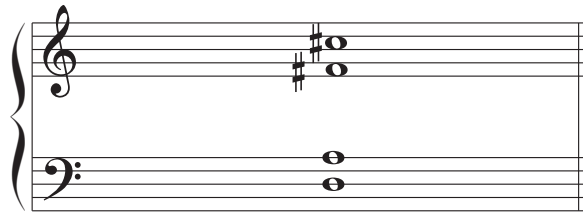


- a 1オクターブと重減3度
b 1オクターブと減3度
c 1オクターブと短3度
d 1オクターブと長3度

2 和音・コードネームに関して、次の(1)～(3)の問いに答えなさい。

(1) 次の楽譜に示す和音は何調の何度の和音か、下のa～dから一つ選びなさい。

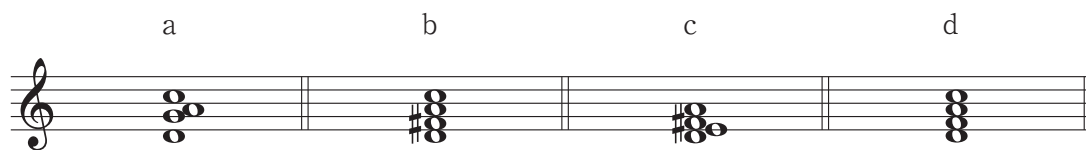
エ



- a 嬰へ短調のⅠ₇の和音 b ロ短調のⅢ₇の和音
c ニ長調のⅤ₇の和音 d イ長調のⅣ₇の和音

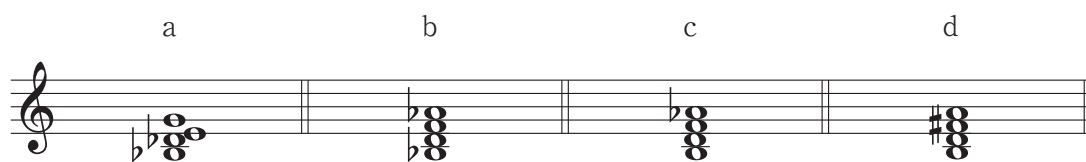
(2) 次のコードネームで表される和音を、下のa～dから一つ選びなさい。 オ

D₇sus₄



(3) 次のコードネームで表される和音を、下のa～dから一つ選びなさい。 カ

Bdim₇



3 調性に関して、次の(1)～(4)の問いに答えなさい。

(1) ハ短調の平行調の下属調を、次のa～dから一つ選びなさい。

キ

a 変ホ長調

b 変イ長調

c ニ長調

d ロ長調

(2) 次の楽譜に示す3つの音を含む音階を、下のa～dから一つ選びなさい。

ク



a ヘ短調の和声的短音階

b 変ホ短調の旋律的短音階（上行形）

c 変ニ長調（長音階）

d ト短調の和声的短音階

(3) 次を示す楽譜をa-mollからf-mollに移調した楽譜として適切なものを、下のa～dから一つ選びなさい。

ケ

(4) 次を示した楽曲の一部分は、何調から何調へ転調しているか、下の a ～ d から一つ
選びなさい。

a ト短調からホ長調

b ニ短調からホ長調

c ト短調からロ長調

d ニ短調からロ長調

4 音楽用語等に関して、次の(1)～(5)の問いに答えなさい。

(1) 奏法を指示する用語のうち、「弱音器をつけて」を意味する音楽用語を、次のa～dから一つ選びなさい。 サ

a div. b tre corde c con sordino d colla parte

(2) 速度などに関する用語のうち、「morendo」と同じような意味をもつものを、次のa～dから一つ選びなさい。 シ

a perdendosi b allargando c tempo primo d giusto

(3) 「grandioso」の意味として適切なものを、次のa～dから一つ選びなさい。

ス

a 気まぐれに b 壮大に c 愛情に満ちて d 優美に

(4) 「静かに」を意味する音楽用語を、次のa～dから一つ選びなさい。

セ

a mosso b tranquillo c risoluto d sostenuto

(5) 次に示した反復記号にしたがって演奏した場合、どのような順番で演奏することになるか。各小節に付された番号を正しく並べたものを、下のa～dから一つ選びなさい。 ソ

The musical notation shows a sequence of 10 measures. Measures 1-2 are grouped under a 'bis' bracket. Measures 3-4 are grouped under a '1.' bracket. Measures 5-6 are grouped under a '2.' bracket. Measures 7-10 are grouped under a 'Fine' bracket. The notation includes a treble clef, a 4/4 time signature, and a repeat sign at the end.

- a ①②③④①②③⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑦⑧
 b ①②①②③④③⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑦⑧
 c ①①②②③④③⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑦⑧
 d ①②①②③④③⑤⑥⑨⑩⑦⑧

25の6

第2問 次の楽譜は、ある楽曲の冒頭部分である。この楽曲に関して (1) ～ (6) の問いに答えなさい。

①

7小節目

- (1) この楽曲と作曲者の組み合わせとして正しいものを、次の a～d から一つ選びなさい。

＜作曲家＞

＜楽曲＞

- | | | |
|---|------------|---------------------------------|
| a | F.メンデルスゾーン | ヴァイオリン協奏曲ホ短調作品64 第1楽章 |
| b | G.ホルスト | 組曲「惑星」から第1曲「火星」 |
| c | C.サン＝サーンス | 組曲「動物の謝肉祭」から第1曲「序奏と堂々たるライオンの行進」 |
| d | A.ヴィヴァルディ | 「和声と創意の試み」第1集「四季」から「秋」第1楽章 |

- (2) この楽譜において、①の部分に入る「速さを示す用語」を、次の a～d から一つ選びなさい。

- a Lento b Presto c Moderato d Allegro

- (3) この楽譜において、②で示されているパートはどの楽器で演奏されるのか。次の a～d から一つ選びなさい。

- a クラリネット b オーボエ c ファゴット d ホルン

- (4) この楽譜の7小節目の和音の種類を、次の a～d から一つ選びなさい。

- a 長三和音 b 短三和音 c 長七の和音 d 短七の和音

- (5) この楽曲に関する説明として適切なものを、次の a～d から一つ選びなさい。

- a ヴァイオリン協奏曲集の一つで、リトルネッロ形式となっている。
 b 特徴あるリズムで音楽が始まり、そのリズムが繰り返される中で三つの主題が現れ、これに応じて曲想が変化する。
 c 三つの楽章から成り、それらは中断することなく演奏される。これは当時としては新しい手法であった。
 d 曲ごとに楽器編成が異なる、複数の短い曲の中の一つである。

- (6) この楽曲の作曲家とは異なる時代で活躍した作曲家を、次の a～d から一つ選びなさい。

- | | | | |
|---|------------|---|--------|
| a | R.シューマン | b | F.リスト |
| c | C.モンテヴェルディ | d | F.ショパン |

第3問 次の1・2の問いに答えなさい。

1 次に示した楽譜の楽曲に関して、(1)～(4)の問いに答えなさい。

(1) この楽曲の作詞者と作曲者の組み合わせとして正しいものを、次のa～dから一つ選びなさい。

	<作詞者>	<作曲者>
a	三木露風	山田耕筰
b	吉丸一昌	中田 章
c	江間章子	團伊玖磨
d	江間章子	中田喜直

(2) この楽譜のAに該当する部分の1番の歌詞はどれか。次のa～dから一つ選びなさい。

a	かぜのリボン	b	まちのかどで
c	かけていったよ	d	ないていたよ

- (3) この楽譜の①～④の部分に入る強弱記号の組み合わせとして正しいものを，次の a～d から一つ選びなさい。

ウ

	①	②	③	④
a	<i>mf</i>	<i>pp</i>	<i>f</i>	<i>p</i>
b	<i>mp</i>	<i>mp</i>	<i>ff</i>	<i>p</i>
c	<i>mf</i>	<i>p</i>	<i>f</i>	<i>p</i>
d	<i>mp</i>	<i>mf</i>	<i>f</i>	<i>mp</i>

- (4) この楽曲の作曲者が作った曲ではないものを，次の a～d から一つ選びなさい。

エ

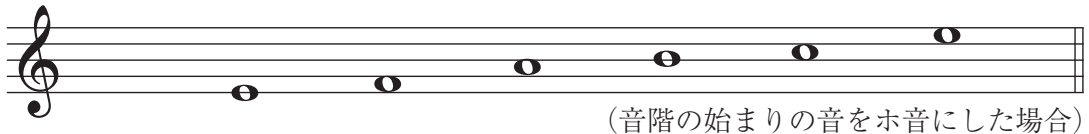
- a 筑後川 b ぞうさん c 夕鶴 d あめふり

2 次の(1)～(6)の問いに答えなさい。

- (1) 民謡や民俗芸能と県名との組み合わせとして正しいものを、次のa～dから一つ選びなさい。

＜民謡や民俗芸能＞	＜県名＞
a 「三国節」	三重県
b 「山中節」	熊本県
c 「男なら」	山口県
d 「花笠音頭」	福島県

- (2) 次に示した日本の音階は何音階か、下のa～dから一つ選びなさい。



- | | |
|--------|------------|
| a 都節音階 | b 律音階 |
| c 民謡音階 | d 沖縄(琉球)音階 |

- (3) 「オルティンドー」に関する説明として適切なものを、次のa～dから一つ選びなさい。

- a 夏の間、高山山腹にある放牧場で生活する牧童たちの間で生まれたといわれている。裏声と地声を交互に組み合わせる歌唱法を特徴とする。
- b 低い声を持続的に出し、それを口の中で共鳴させて倍音を響かせることによって、一人で複数の音を同時に出す歌唱法を特徴とする。
- c 宗教的な歌で、伴奏にはハルモニウム(小型のオルガン)、タブラーなどの太鼓、手拍子が用いられる。
- d 長い間、遊牧民の婚礼や祝い事、祭りの際に歌われてきた。拍のない音楽で、コブシのような細かい節回しを特徴とする。

- (4) 次の①～④の「作品名」(作曲家)の組み合わせが古い時代順に並んでいるものを、下の a～d から一つ選びなさい。 ク

- ① 「魔弾の射手」(C.M.v.ヴェーバー)
- ② 「ハーリ・ヤーノシュ」(Z.コダーイ)
- ③ 「アイーダ」(G.ヴェルディ)
- ④ 「オルフェオとエウリディーチェ」(C.W.グルック)

- a ④ → ① → ③ → ② b ② → ③ → ① → ④
c ① → ④ → ② → ③ d ③ → ① → ② → ④

- (5) 次の文は、グレゴリオ聖歌について説明している。文中の (①) ～ (③) に該当する語句の組み合わせとして正しいものを、下の a～d から一つ選びなさい。

ケ

ヨーロッパ各地の教会で歌われていた (①) の聖歌は、しだいに収集、整理され、ローマ・カトリック教会の礼拝用の音楽に定められた。これらは「グレゴリオ聖歌」と呼ばれ、(②) の歌詞で (③) で斉唱された。教皇グレゴリウス 1 世 (在位590～604) らが聖歌の整備に尽力したといわれている。現存する最古のグレゴリオ聖歌は9世紀頃に書かれたものである。

- | | | |
|----------|-----------|-----------|
| a ① 単旋律 | ② ラテン語 | ③ 無伴奏 |
| b ① 多声音楽 | ② ラテン語 | ③ オルガンの伴奏 |
| c ① 単旋律 | ② 古代ギリシア語 | ③ 無伴奏 |
| d ① 多声音楽 | ② 古代ギリシア語 | ③ オルガンの伴奏 |

- (6) 次の文は、「メサイア」(G.F.ヘンデル)について説明している。文中の () に該当する語句として正しいものを、下の a～d から一つ選びなさい。

コ

「メサイア」は、旧約、新約聖書の内容に基づいて、キリストの降誕の預言とその成就から、受難、復活に至るまでを描いた () である。

- a カンタータ b 楽劇 c オラトリオ d オペラ

第4問 次の(1)～(9)の問いに答えなさい。

- (1) 楽譜に示す音とアルトリコーダーの運指の組み合わせが誤っているものを、次のa～dから一つ選びなさい。 ア

a b c d

親指 0 1 2 3 4 5 6 7

吹き口
↓

- (2) コードネームとギターのダイアグラムの組み合わせが正しいものを、次のa～dから一つ選びなさい。 イ

a E

b C

c G7

d Bm7

○…開放弦

×…弾かない弦

△…弾かなくてもよい弦

- (3) ギターの「アポヤンド奏法」の説明として適切なものを、次の a～d から一つ選びなさい。 ウ

- a 左手の人さし指で2本以上の弦を同時に押さえる奏法で、様々なコードを演奏することなどに適している。
- b 弦をはじいた後、指は隣の弦に触れない奏法で、アルペッジョ（分散和音）を弾くことなどに適している。
- c 弦をはじいた後、指を隣の弦に当てて止める奏法で、旋律の演奏や低音をしっかりと鳴らすことなどに適している。
- d 左手でコードを押さえ、右手で何本かの弦を同時にかき鳴らす奏法で、豊かな音量で表現することなどに適している。

- (4) 次の文は、トランペットについて説明している。文中の（ ① ）～（ ③ ）に該当する語句の組み合わせとして正しいものを、下の a～d から一つ選びなさい。

エ

トランペットは、発音原理に基づく分類では（ ① ）楽器に当たる。古くは（ ② ）のないものが用いられてきたが、現代は（ ② ）を備えていて、半音階を演奏することができる。ハ調の楽器は実音で記譜されるが、変ロ調の楽器は記音よりも（ ③ ）響く。

- | | | | |
|---|------|----------|---------|
| a | ① 気鳴 | ② ヴァルヴ | ③ 長2度高く |
| b | ① 体鳴 | ② マウスピース | ③ 長2度高く |
| c | ① 体鳴 | ② マウスピース | ③ 長2度低く |
| d | ① 気鳴 | ② ヴァルヴ | ③ 長2度低く |

- (5) 次の①～④の「作品名」（作曲家）の組み合わせが古い時代順に並んでいるものを、下の a～d から一つ選びなさい。 オ

- ① 「ルーマニア民俗舞曲」（B.バルトーク）
- ② 「クラリネット五重奏曲」（W.A.モーツァルト）
- ③ 「幻想交響曲」（H.ベルリオーズ）
- ④ 「食卓の音楽」（G.P.テレーマン）

- | | | | |
|---|---------------|---|---------------|
| a | ④ → ② → ③ → ① | b | ① → ② → ③ → ④ |
| c | ② → ③ → ① → ④ | d | ④ → ① → ② → ③ |

- (6) 次の文は、交響詩について説明している。文中の (①) ～ (③) に該当する語句の組み合わせとして正しいものを、下の a ～ d から一つ選びなさい。

カ

自然や文学的な内容などを (①) を用いて描く音楽で、(②) からつくられるようになった。多くの場合、(③) で書かれる。

- | | | | |
|---|-----------|-----------|---------|
| a | ① 独奏と弦楽合奏 | ② 18世紀の中頃 | ③ 協奏曲形式 |
| b | ① オーケストラ | ② 19世紀の中頃 | ③ 自由な形式 |
| c | ① 独奏と弦楽合奏 | ② 19世紀の後半 | ③ ソナタ形式 |
| d | ① オーケストラ | ② 20世紀の前半 | ③ 自由な形式 |

- (7) 次の a ～ d の楽器の中で、打弦楽器ではないものを、一つ選びなさい。

キ

- a サントウル b ツインバロム c ピアノ d シタール

- (8) 郷土の音楽に用いられる楽器名と都道府県名との組み合わせとして正しいものを、次の a ～ d から一つ選びなさい。

ク

- | | <楽器名> | <都道府県名> |
|---|--------|---------|
| a | トンコリ | 秋田県 |
| b | ぶーやれ | 京都府 |
| c | こきりこ | 北海道 |
| d | パーランクー | 沖縄県 |

- (9) 雅楽で用いられる楽器の吹物・弾物・打物の組み合わせとして正しいものを、次の a ～ d から一つ選びなさい。

ケ

- | | <吹物> | <弾物> | <打物> |
|---|------|------|------|
| a | 笙 | 楽琵琶 | 鞆鼓 |
| b | 竜笛 | 箏 | 楽太鼓 |
| c | 篠笛 | 楽琵琶 | 鉦鼓 |
| d | 尺八 | 楽箏 | 楽太鼓 |

【選択問題 中学校】

第5問 平成29年3月告示の中学校学習指導要領 音楽について、次の(1)～(5)の問いに答えなさい。

- (1) 次の文は、「第1 目標」の一部である。(①)～(④)に該当する語句の組み合わせとして正しいものを、下のa～dから一つ選びなさい。 ア

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、(①)の中の音や音楽、(②)と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造や(③)などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

(2) 略

- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな(④)を培う。

- | | | | | |
|---|---------|------------|---------|-------|
| a | ① 社会 | ② 音楽文化 | ③ 歌詞の内容 | ④ 情操 |
| b | ① 社会 | ② 世界の様々な音楽 | ③ 歌詞の内容 | ④ 創造性 |
| c | ① 生活や社会 | ② 世界の様々な音楽 | ③ 背景 | ④ 創造性 |
| d | ① 生活や社会 | ② 音楽文化 | ③ 背景 | ④ 情操 |

- (2) 次の文は、「第2 各学年の目標及び内容〔第2学年及び第3学年〕2 内容 A 表現(1)」の事項の一部である。(①) ～ (③) に該当する語句の組み合わせとして正しいものを、下のa～dから一つ選びなさい。 イ

(1) 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア (略)

イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。

(ア) (略)

(イ) 声の音色や響き及び言葉の特性と (①) との関わり

ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。

(ア) 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、
(②) などの技能

(イ) 創意工夫を生かし、(③) や各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能

- | | | | |
|---|-------------|----------|---------|
| a | ① 曲種に応じた発声 | ② 身体の使い方 | ③ 全体の響き |
| b | ① 曲にふさわしい発声 | ② 身体の使い方 | ③ 全体の調和 |
| c | ① 曲種に応じた発声 | ② 呼吸の仕方 | ③ 全体の響き |
| d | ① 曲にふさわしい発声 | ② 呼吸の仕方 | ③ 全体の調和 |

- (3) 次の文は、「第2 各学年の目標及び内容〔第1学年〕2 内容 B 鑑賞(1)」の事項の一部である。(①) ～ (③) に該当する語句の組み合わせとして正しいものを、下のa～dから一つ選びなさい。 ウ

(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア (略)

イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。

(ア) (略)

(イ) 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の (①) との関わり

(ウ) 我が国や郷土の伝統音楽及び (②) の諸民族の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の (③)

- | | | | |
|---|------|---------|---------|
| a | ① 芸術 | ② 世界の | ③ 多様性 |
| b | ① 地域 | ② アジア地域 | ③ 意味や価値 |
| c | ① 地域 | ② 世界の | ③ 意味や価値 |
| d | ① 芸術 | ② アジア地域 | ③ 多様性 |

- (4) 次の文は、「第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2 (1) ウ」の事項である。
 (①) ～ (③) に該当する語句の組み合わせとして正しいものを、下の a ～ d から一つ選びなさい。 エ

ウ 知覚したことと感受したこととの関わりを基に (①) を捉えたり、思考、判断の過程や結果を表したり、それらについて他者と (②) したりする際には、適宜、(③) 活動も取り入れるようにすること。

- | | | | |
|---|---------|-----------|---------|
| a | ① 音楽の構造 | ② 話し合い、共有 | ③ 体を動かす |
| b | ① 音楽の特徴 | ② 共有、共感 | ③ 批評をする |
| c | ① 音楽の特徴 | ② 共有、共感 | ③ 体を動かす |
| d | ① 音楽の構造 | ② 話し合い、共有 | ③ 批評をする |

- (5) 次の文は、「第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2 (2) イ」の事項である。
 (①) ～ (③) に該当する語句の組み合わせとして正しいものを、下の a ～ d から一つ選びなさい。 オ

イ 変声期及び変声前後の (①) について気付かせ、変声期の生徒を含む全ての生徒の (②) についても配慮するとともに、変声期の生徒については (③) によって歌わせるようにすること。

- | | | | |
|---|--------|---------|--------------|
| a | ① 声の特徴 | ② 心身の変化 | ③ 適切な声域と声量 |
| b | ① 声の変化 | ② 心理的な面 | ③ 適切な声域と声量 |
| c | ① 声の変化 | ② 心理的な面 | ③ 無理のない声域と声量 |
| d | ① 声の特徴 | ② 心身の変化 | ③ 無理のない声域と声量 |

【選択問題 高等学校】

第5問 平成30年3月告示の高等学校学習指導要領 芸術 音楽Ⅰについて、次の(1)～(5)の問いに答えなさい。

- (1) 次の文は、「第1 目標」の一部である。(①)～(④)に該当する語句の組み合わせとして正しいものを、下のa～dから一つ選びなさい。 ア

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、(①)の中の音や音楽、(②)と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 曲想と音楽の構造や(③)などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

(2) (④)のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。

(3) (略)

- | | | | |
|---|-----------------|-----------|-------------|
| a | ① 生活
④ 自己 | ② 多種多様な音楽 | ③ 文化的・歴史的背景 |
| b | ① 生活
④ 表現 | ② 音楽文化 | ③ 背景 |
| c | ① 生活や社会
④ 表現 | ② 多種多様な音楽 | ③ 背景 |
| d | ① 生活や社会
④ 自己 | ② 音楽文化 | ③ 文化的・歴史的背景 |

- (2) 次の文は、「2 内容 A 表現 (1) 歌唱」の事項の一部である。(①) ～ (③) に該当する語句の組み合わせとして正しいものを、下の a～d から一つ選びなさい。 イ

(1) 歌唱

歌唱に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア (略)

イ 次の (ア) から (ウ) までについて理解すること。

(ア) (略)

(イ) 言葉の特性と (①) との関わり

(ウ) (略)

ウ 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、次の (ア) から (ウ) までの技能を身に付けること。

(ア) 曲にふさわしい発声、言葉の発音、(②) などの技能

(イ) (略)

(ウ) (③) の特徴を生かして歌う技能

- | | | | |
|---|------------|----------|--------|
| a | ① 曲種に応じた発声 | ② 身体の使い方 | ③ 表現形態 |
| b | ① 声の音色や響き | ② 身体の使い方 | ③ 音楽 |
| c | ① 曲種に応じた発声 | ② 呼吸の仕方 | ③ 表現形態 |
| d | ① 声の音色や響き | ② 呼吸の仕方 | ③ 音楽 |

- (3) 次の文は、「2 内容 A 表現 (3) 創作」の事項の一部である。(①) ～ (③) に該当する語句の組み合わせとして正しいものを、下の a ～ d から一つ選びなさい。 ウ

(3) 創作

創作に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア (略)

イ 音素材，音を連ねたり重ねたりしたときの響き，音階や音型などの特徴及び (①) について，(②) イメージと関わらせて理解すること。

ウ 創意工夫を生かした創作表現をするために必要な，次の (ア) から (ウ) までの技能を身に付けること。

(ア) (略)

(イ) 旋律をつくったり，つくった旋律に副次的な旋律や (③) などを付けた音楽をつくったりする技能

(ウ) (略)

- | | | | |
|---|----------|--------|------|
| a | ① 構成上の特徴 | ② 自己の | ③ 和音 |
| b | ① 構成原理 | ② 表したい | ③ 伴奏 |
| c | ① 構成原理 | ② 自己の | ③ 伴奏 |
| d | ① 構成上の特徴 | ② 表したい | ③ 和音 |

- (4) 次の文は、「3 内容の取扱い (8)」の事項である。(①) ～ (③) に該当する語句の組み合わせとして正しいものを、下の a ～ d から一つ選びなさい。

エ

(8) 内容の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては，思考力，判断力，表現力等の育成を図るため，音や音楽及び (①) によるコミュニケーションを図り，芸術科音楽の特質に応じた (②) を適切に位置付けられるよう指導を工夫する。なお，内容の「B鑑賞」の指導に当たっては，曲や演奏について根拠をもって (③) する活動などを取り入れるようにする。

- | | | | |
|---|--------|--------|------|
| a | ① 言語活動 | ② 話し合い | ③ 批評 |
| b | ① 言葉 | ② 言語活動 | ③ 評価 |
| c | ① 言葉 | ② 言語活動 | ③ 批評 |
| d | ① 言語活動 | ② 話し合い | ③ 評価 |

- (5) 次の文は、「3 内容の取扱い (11)」の事項である。(①) ～ (③) に該当する語句の組み合わせとして正しいものを、下の a ～ d から一つ選びなさい。

オ

(11) 自己や他者の著作物及びそれらの著作者の (①) を尊重する態度の形成を図るとともに、必要に応じて、音楽に関する (②) について触れるようにする。また、こうした態度の形成が、(③) の継承、発展、創造を支えていることへの理解につながるよう配慮する。

- | | | | |
|---|-------|---------|--------|
| a | ① 権利 | ② 知的財産権 | ③ 音楽文化 |
| b | ① 創造性 | ② 知的財産権 | ③ 音楽文化 |
| c | ① 創造性 | ② 著作権 | ③ 芸術文化 |
| d | ① 権利 | ② 著作権 | ③ 芸術文化 |

【選択問題 特別支援学校】

第5問 次の1～5の問いに答えなさい。

- 1 次の文は、令和4年12月に文部科学省より示された「生徒指導提要」の一部である。

発達障害を含む障害者への差別の解消に関して、平成28年4月に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（いわゆる「障害者差別解消法」）が施行されました。この法律では、障害を理由とする「」の禁止と障害者への「合理的配慮の提供」が求められています。とは障害者の権利利益を侵害することです。合理的配慮の提供とは、から社会的障壁の除去を必要としている旨の意思の表明があった場合は、その実施に伴う負担が過重でないときは、障害者の権利利益を侵害することとならないよう、社会的障壁の除去の実施について必要かつ合理的な配慮に努めなければならないということです。

- (1) 空欄アに入る語句を、次のa～dの中から一つ選びなさい。

- a 不当な差別的な取扱い b 活動の制限
c 各種機会の提供の拒否 d 選挙活動の制限

- (2) 空欄イに入る語句を、次のa～dの中から一つ選びなさい。

- a 学級担任 b 障害者
c 医師 d 関係者

2 次の文は、令和3年9月に文部科学省から通知された「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律の施行について（通知）」にある「留意事項」の一部である。

文中の ～ に当てはまる語句を下の1～9の中から一つずつ選びなさい。

(1) 定義（第2条関係）

① 「医療的ケア」の定義は、人工呼吸器による呼吸管理、喀痰吸引その他の であり、幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校（以下「学校」という。）において、 の指示の下、医療的ケア看護職員や喀痰吸引等（社会福祉士及び介護福祉士法（昭和62年法律第30号）第2条第2項に規定する喀痰吸引等をいう。以下同じ。）を行うことができる介護福祉士、認定特定行為業務従事者（社会福祉士及び介護福祉士法附則第3条第1項に規定する認定特定行為業務従事者をいう。以下同じ。）が従前から行っている医療的ケアの範囲を変更するものではないこと。（第2条第1項関係）

② 「医療的ケア児」の定義は、日常生活及び社会生活を営むために に医療的ケアを受けることが不可欠である児童であり、18歳未満の者に加え、18歳以上の者であって、高等学校、中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部に在籍する者も含まれること（以下「児童生徒等」という。）。（同条第2項関係）

- | | | | | |
|-------|--------|-------|--------|--------|
| 1 学校長 | 2 医療行為 | 3 定期的 | 4 医師 | 5 健康管理 |
| 6 恒常的 | 7 養護教諭 | 8 緊急的 | 9 看護行為 | |

- 3 次の文は、「特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）（平成30年3月）」の一部である。

児童生徒一人一人の学習状況を に評価するため、 の目標に準拠した評価の観点による学習評価を行うことが重要である。一つの授業や単元，年間を通して，児童生徒がどのように学ぶことができたのかや，成長したのかを見定めるものが学習評価である。

（中略）

なお，教科別の指導を行う場合や各教科等を合わせて指導を行う場合においても，

の目標に準拠した評価の観点による学習評価を行うことが必要である。

- (1) 空欄カに入る語句を，次の a～d の中から一つ選びなさい。

a 長期的 b 短期的 c 効率的 d 多角的

- (2) 空欄キに入る語句を，次の a～d の中から一つ選びなさい。

a 自立活動 b 6区分27項目 c 各教科 d 各段階

- 4 次の文は、「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月）」の一部である。

自立活動は，特別支援学校の教育課程において特別に設けられた である。この自立活動は，①授業時間を特設して行う自立活動の時間における指導を中心とし，各教科等の指導においても，自立活動の指導と密接な関連を図って行われなければならない。このように，自立活動は，障害のある幼児児童生徒の教育において，教育課程上重要な位置を占めていると言える。

- (1) 空欄クに入る語句を，次の a～d の中から一つ選びなさい。

a 指導形態 b 指導領域 c 教科 d 専門教科

- (2) 下線部①「授業時間」について，「特別支援学校 小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月）」では，児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に
応じてどのように定めるとされているか，次の a～d の中から選びなさい。

a 年間10単位時間から280単位時間までを標準とする。
b 年間35単位時間から280単位時間までを標準とする。
c 年間7単位を超えない範囲で定めるものとする。
d 適切に定めるものとする。

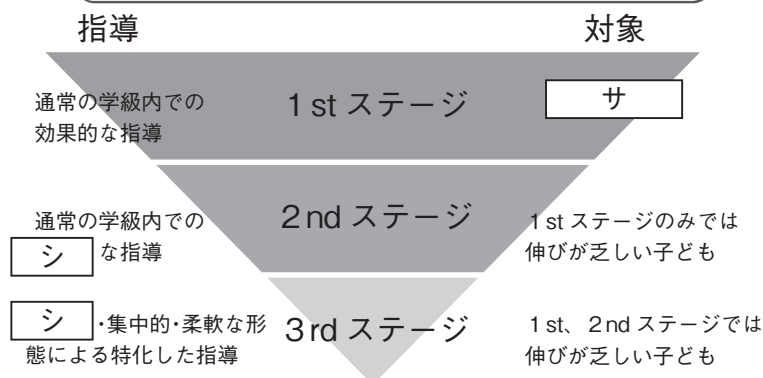
5 次の文は、高知県教育委員会で作成した『すべての子どもが「分かる」「できる」授業づくりガイドブック [改訂版]』（令和3年3月）の一部を示したものである。

文中の ～ に当てはまる語句を、下の a ～ d の中からそれぞれ一つ選びなさい。

(2) 通常の学級における学習につまずきのある子どもへの支援の在り方

通常の学級において、学習につまずきのある子どもへの対応を考える上で、多層指導モデル（MIM）が参考になります。これは、異なる学力層の子どものニーズに対応した指導・支援を提供していこうとするモデルであり、特に子どもが学習に に、また、つまずきが重篤化する前に指導・支援を行うことを目指すものです。MIMでは、まず1stステージでは、通常の授業の中で質の高い指導を に実施します。2ndステージでは、1stステージのみでは伸びが十分でない子どもに対して、通常の授業に加え、その他の時間帯等も使いながら、 な指導を行っていきます。その子ども向けの教材、その子どもに向けての指示等、通常の学級内での な指導ととらえます。3rdステージでは、1stステージ、2ndステージの指導を行ってもなお、伸びが乏しい子どもに対し、より個に特化した集中的な指導を実施します。、集中的に柔軟な形態での特化した指導を目指します。指導の場としては、通常の学級内にとどまらず、 等での指導も考えられます。

通常の学級における多層指導モデル
(Multilayer Instruction Model:MIM)



引用文献

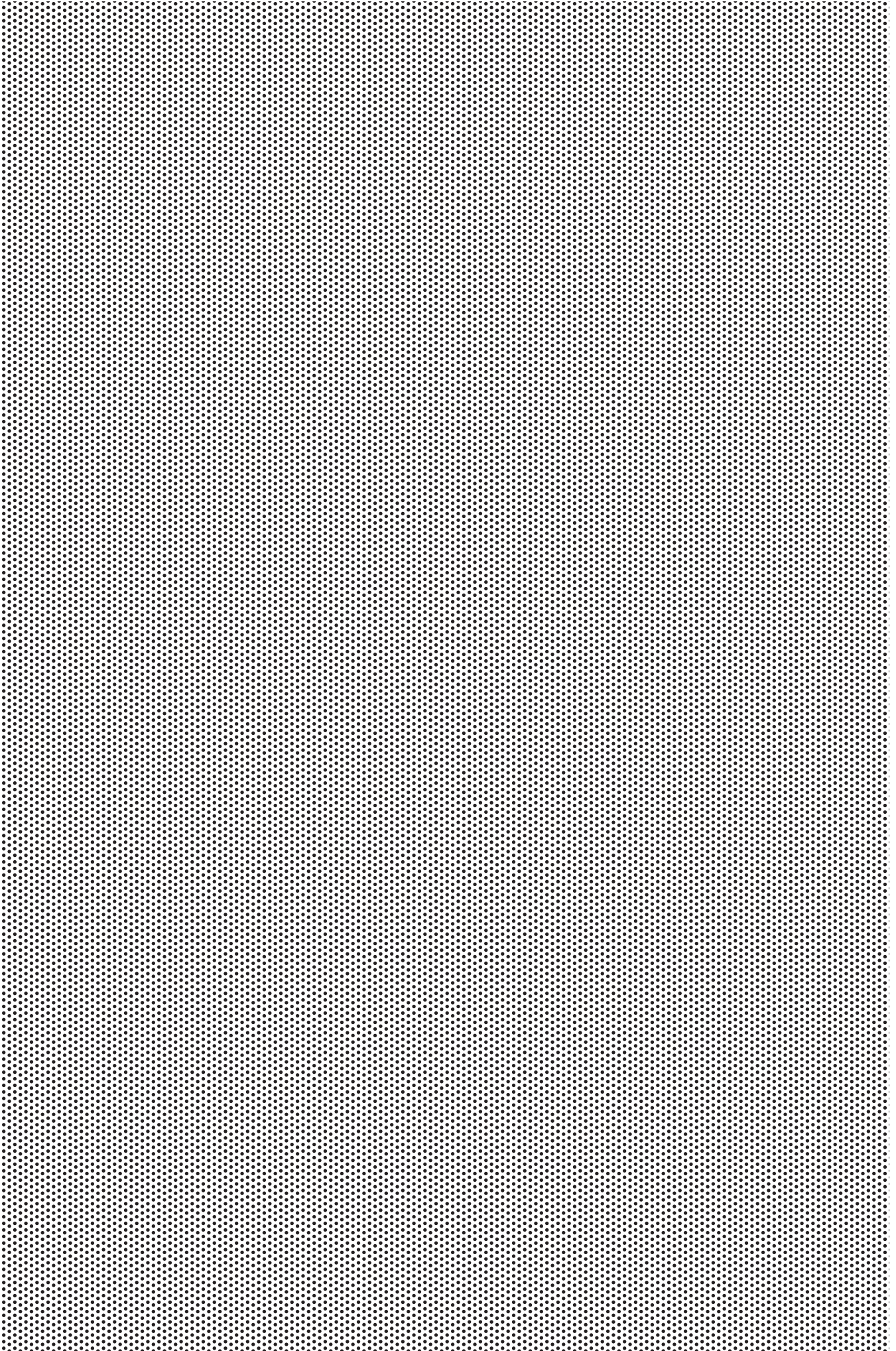
「通常の学級における学習につまずきのある子どもへの多層指導モデル（MIM）開発に関する研究」海津他【2008】

- | | |
|------------|-----------|
| a つまずいた時 | b つまずく前 |
| c 興味がもてない時 | d 集中できない時 |

- | | |
|--------------|------------------|
| a 全ての子ども | b 特異な才能のある子ども |
| c つまずきのある子ども | d 特別な配慮を必要とする子ども |

- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| a 発展的 | b 総合的 | c 横断的 | d 補足的 |
|-------|-------|-------|-------|

- | | |
|----------|-------------|
| a 居住地校交流 | b 通級指導教室 |
| c 適応指導教室 | d 交流および共同学習 |



- 5 解答は、解答用紙（マークシート）の解答欄をマークしてください。例えば、解答記号 ア と表示のある問いに対して b と解答する場合は、下の（例）のように **アの解答欄の b** をマークしてください。

（例）

ア	a		c	d	e	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	.	-	±
---	---	--	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

なお、一つの解答欄に対して、二つ以上マークしないでください。

- 6 筆記審査（専門教養）が終了した後、解答用紙（マークシート）のみ回収します。監督者から指示があれば、この問題冊子を、各自、持ち帰ってください。